

連合総研ブックレットNo.15 IoT や AI の普及に伴う労働への影響と課題  
 ー新技術導入の現状・労働組合の受け止めと期待される役割ー

「IoTやAIの普及と労働のあり方に関する調査研究プロジェクト」

アドバイザー、総論執筆	労働政策研究・研修機構	山本 陽大	副主任研究員
事務局	杉山 豊治	連合総研副所長	
	中村 善雄	連合総研主幹研究員	
	戸塚 鐘	連合総研主任研究員（主担当）	
	小川 士郎	連合総研主任研究員	
	松井 良和	連合総研研究員	

\*2018年11月現在の役職名。

現在、急速に進みつつあるIoTやAIといった新技術の進展と社会への普及は、生産、サービス、生活のあり方をはじめ、就業構造や労働のあり方にも大きな影響を与えることが予測されている。日本における「物づくり」現場、ホワイトカラー労働者の働き方をはじめ、対人サービス分野での労働のあり方や労使関係への影響など、検討すべき課題は多岐に及ぶと考えられている。定形型労働に加え非定形型労働においても、機械への代替が進むなど雇用の二極化や雇用減少といった労働者にとってマイナス側面での影響が予測されている一方で、労働力人口が減少する日本において顕在化しつつある人手不足の解消や新たな成長分野での仕事の創出といったプラス面での影響も予測されている。

連合総研ではIoTやAI等の新技術の進展がもたらす労働環境の変化、そして労働者への影響や課題を明らかにすることを目的として「IoTやAIの普及と労働のあり方に関する調査研究プロジェクト」を立ち上げた。プロジェクトでは労働、法律、経済、人工知能分野の学者・研究者そして企業経営者と、多岐にわたる有識者による講演会（ヒアリング）や座談会を開催すると共に、労働現場における新技術の導入状況と労働組合の受け止めを明らかにするために、産別労働組合そして単組へのヒアリング調査を実施し、変化の時代に労働組合に期待される役割について検討を行った。

本ブックレットは、プロジェクトから明らかになった様々な知見および、労働現場における新技術の導入状況をとりとまとめている。

目次

はじめに

1. AI等の技術革新による働き方の変化と課題の整理
2. 技術革新がこれからの社会に与える影響
  - (1) AI・IoTと労働ーその背景と日本的経営ー
  - (2) AIの技術革新の進展による社会への影響について
  - (3) IoTやAIの普及とこれからの社会・働き方・暮らし方
3. 座談会報告：新技術がもたらす変化と労働組合の役割ー有識者による提言ー
4. ヒアリングー労働現場で起きている変化と労働組合の認識ー
  - (1) 三菱ふそう労働組合
  - (2) NTT労働組合 東日本本部
  - (3) 三井住友海上労働組合
  - (4) 全国生命保険労働組合連合会

まとめ

活動の経過